

<http://www.osaka-c.ed.jp/semboku/department/general.science/ssh>

SSH 広報委員 (2年生) 横田真、岸本慧、山下和輝 (1年生) 永吉奎太、加藤貴大、小林史弥、島田明日斗、下湯瀬夏生、杉本拓生、松岡瑠奈、松下怜奈、向川崇、川路遼介、永嶋明良、古塚来未、津坂元氣

■泉北子ども科学フェスティバルを開催(12月)

2014年12月23日(火)に、泉北高校主催の第2回 泉北子ども科学フェスティバルが開催されました。この行事は本校の科学技術人材育成重点枠の1つの柱である地域の科学教育の拠点となることを目指した取組の一環として実施したもので、昨年は12月25日の午後に行ない、約150名の小学生の参加があって好評だったので、今年は終日実施したところ、近隣の小学校から約200名の参加があり、どのブースも実験や工作に熱心に取り組む小学生達で大盛況でした。



●サイエンス部で2つのブースを担当して

泉北高校の1年生の科学探究基礎受講者と、他校からは、大阪市立東高校の天文同好会と大阪府立住吉高校のサイエンス部が来てくれて全部で15個のブースができました。パソコンと画面を使

(5) 2015年(平成27年)1月15日 泉北コミュニティのホームページは「コミ



**子供科学体験を
泉北高校生が指導**
12月23日、泉北高校が梅文化会館で子供科学フェスティバルを開催した。昨年に続いて2回目。前回好評だったので、今回は時間を

ったアハ体験から、立体的な図形を工作のように作るものまで、本当にいろいろな分野のものがそろっていてたくさん学ぶことがあったと思います。サイエンス部では、葉脈しおり作りとチリモンさがしを担当しました。このイベントでは、参加してくれた小学生たちにわかりやすい説明ができるように、事前にたくさん調べて本番に望みました。それによって来てくれた子どもたちは説明を聞いていてどんどん興味をもってくれ、科学への興味が高まったと思います。そして来てくれた子どもだけでなくその親御さん方にもとても興味をもってもらうことができました。これからもこのような活動を通じて科学に興味をもってもらえればいいと思いました。担当した私達も、どうしたら小学生にわかってもらえるかを考えたので、たいへん勉強になりました。(島田)

拡大して、参加者がより多くのブースを回れるように配慮した。
同校が文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校に指定されたことを受け、地域の科学教育の拠点となるべく企画。同校の1年生が選択科目の授業の中で教員が指導する受けながら自分達で各ブースの出し物を決めた。ポリマー、カメラ、骨、月球儀、気圧、葉脈など、子供が興味を持ちそうな題材を選び、12月に入ってから準備にとりかかった。小学生にも分かるように説明するため、手順や理論の解説方法も考えた。
小学3年生以上を対象で、南区の各小学校に呼びかけ

たところ、当日は来場者数200人を超える大盛況ぶり。子供達が好きなブースに並び、思い思いに体験していった。高校生は事前の準備通りにテキパキと対応しながら熱心に指導。子供達の反応に目を細める良い先生ぶりを発揮していた。

同校の地学担当で今回指導した和田充弘さんは「小学生対象で企画し、実際に指導するのは生徒達にとっても非常にいい経験です。今回は同じSSH指定校の住吉高校と大阪府立東高校が各1ブース参加してくれ、来年も地元での科学教育活動に力を入れていきます」と。

(杉本)

■第2回サイエンスツアー(11月)

サイエンス部主催で行われた第2回サイエンスツアーで、私たちは神戸どうぶつ王国と伊丹市昆虫館～昆陽池を訪れました。神戸どうぶつ王国ではインコやペリカンなどの鳥類をはじめとした多種多様な動物と触れ合ったり、観察してレポートを書いたりしました。

伊丹市昆虫館ではカブトムシなどの昆虫の展示物を見たり、昆陽池公園でオオガモやハクチョウを双眼鏡で観察したりしました。中でもチョウ温室は圧巻で、14種類、千匹にもおよぶチョウに度肝を抜かれました。中には虫が苦手な人もいましたが、何人かの人は成虫になったチョウを放ったりするなど運にも恵まれました。このサイエンスツアーでの貴重な経験をこれからの勉学などに生かそうと思います。(永吉)



神戸どうぶつ公園にて



伊丹昆虫館の展示見学



昆陽池公園の水鳥

■シンガポール～マレーシアスタディツアー(10月)

2年生(45期生)は、10月19日から23日の5日間、マレーシア・シンガポールへスタディーツアーに行ってきました。シンガポールのチャンギ空港を出て、まず感じたことは「蒸し暑い!」ということです。東南アジアは熱帯雨林気候に属しており、日本のような四季はありません。

2日目はマレーシアの南方大学学院で大学生と交流し、午後にはホテル下のショッピングセンターで買い物しました。マレーシアの物価は日本よりも安く、たくさんお土産を買っている人もいました。3日目からはシンガポールに入国し、午前はテーマ別研修でサイエンスセンターを見学し、午後から総合科学科はスンガイブロー研修で、湿地の様々な動植物を見ました。夕食後は、ウイングオブタイムというショーを鑑賞しました。このショーは光や水、音楽を使った迫力のあるものでした。4日目午前中はセントーサ島を自主研修し、午後からは現地の大学生の案内で、シンガポール市内を観光しました。

現地では、日本では見たことのない動物や植物を見かける機会もあり、写真に収めるのに必死でした。また、私自身初めての海外旅行で、多くのカルチャーショックを受けました。現地ではスコールと呼ばれる豪雨が降ります。それは、たちまち道路が冠水するほどの強さで、大変驚きました。他には、食文化の違いです。現地の食事は当然日本のものと異なっており、最初は新鮮だったものの、次第に飽きてしまいました。帰国後、日本の料理は美味しいなあと心から感じました。(横田)



■「第4回科学の甲子園大阪大会」(10月)

10月26日、大阪工業大学で行われた「第4回 科学の甲子園 大阪大会」に参加しました。科学の甲子園には24の高校が参加し、競技内容は、各校6名ずつでチームを組み、筆記テスト(120分)で物理・化学・生物・地学・数学・情報の問題を解き、科学のものづくりやコミュニケーションを活用した課題解決力を問う実技2競技(60分×2テーマ)で行うというものです。大阪教育大学付属高校天王寺校が第1位となり、3月に行われる全国大会へ出場することになりました。

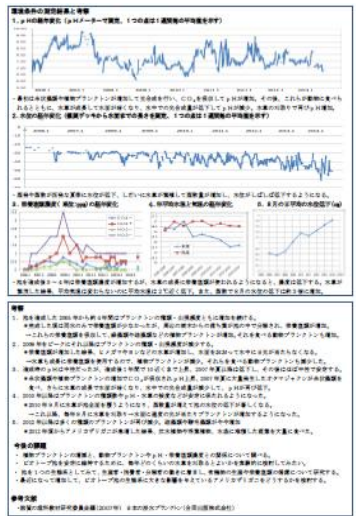
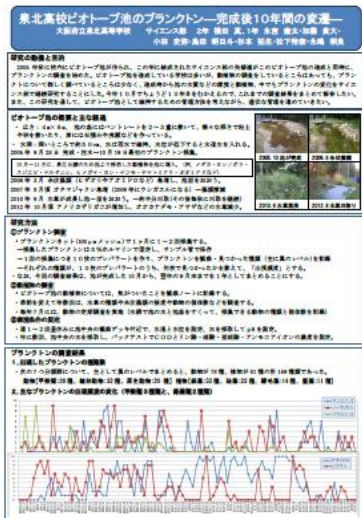


●「科学の甲子園大阪大会」に参加して

雰囲気は普通のテストと同じような感じかと思っていましたが、相談してやるのであまり緊張感はありませんでした。筆記テストは、基本問題から応用問題まであり、学校でする「科学探究力テスト」のような問題も多く出ました。実験は物理分野の基本的な実験でしたが、本当にこの操作でいいのか不安でした。午前・午後とも2時間座りっぱなしでしんどかったですが、よい経験ができました。優勝したいと思ってがんばってやりましたが、残念ながらできませんでした。しかし、かなりできた分野もあります。これからも勉学に励み、このような機会に自分の実力を発揮できるようになりたいと思いました。(木村彰吾・竹尾敦志)

■大阪府学生科学賞「優秀賞」を受賞

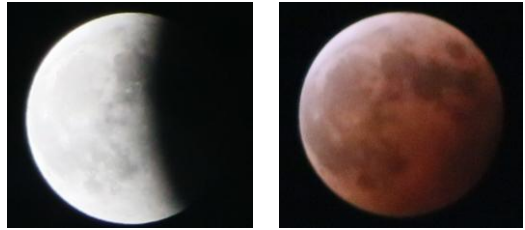
平成26年度の大阪府学生科学賞には、3年生の課題研究班とサイエンス部から4班が応募をしましたが、10月17日に行われた審査の結果、このうち「泉北高校ビオトープ池のプランクトンの9年間の変遷」の研究で出展したサイエンス部のビオトープ班が「大阪府教育委員会賞 優秀賞」を受賞し、主催者でもある読売新聞の大阪版に掲載されました。そして、11月8日に読売新聞社大阪本社で行われた表彰式で、表彰状をいただきました。昨年受賞の「最優秀賞」は逃しましたが、本校は大阪府学生科学賞に出展した4年連続受賞を続けており、来年も成果を期待したい。



■サイエンス部の活動紹介

●皆既月食観望会を実施して

10月8日、学校に残って皆既月食を観測しました。19時半頃から1時間ほど皆既月食を観測できるということでしたが、天候もよく、美しく赤色に輝く月を見ることができました。途中、少しだけ雲がかかった時もありましたが、かなり長い時間観測できたのでよかったです。実際に地球も月も動いているという証拠を見ることができたような気がして、とても面白く感じました。(古塚)



●1年生だけのクラブ体験を担当して

2年生がスタディーツアーに参加している間、10月21日にミニオープンスクールがあり、中学生2人がサイエンス部の体験に来てくれました。色の実験や気圧の実験、10円玉や1円玉を使用した実験をしました。どの実験も中学生の方は喜んでくれました。

また、実験結果がなぜそうなるかという理由を説明すると、とても興味深く聞いてくれました。来年入部してくれる子は何人いるのか楽しみになりました。これからも日々サイエンス部の活動を多くの人に知ってもらうように活動を続けたいです。(松岡)

●子どものためのジオカーニバルに参加して

サイエンス部は、11月2日に大阪市立科学館で第15回ジオカーニバルのボランティアとしてこの行事の手伝いに行きました。僕は午前中はパンフレット配りをし、午後は、アンケートを書いてもらう仕事をしました。また、大阪市立科学館の入場券をもらったので、科学館の展示を見学しました。久々に見学してみて、懐かしい展示物が見れてよかったです。来年は、出展者として出るようになるので楽しみです。(川路)

●益川塾(京都産業大学)に参加して

2014年の11月3日に、私たちは2008年にノーベル物理学賞を受賞された益川教授と惑星無人探査機として話題になったはやぶさのプロジェクトに参加されていた川口淳一郎さんを中心として開催された益川塾という高校生中心の発表大会に行ってきました。益川教授や川口さんの話は、とても面白かったです。そのあと、高校生のポスター発表を見てまわってくれてすごく勉強になりました。このイベントを通して科学への興味も深まって、とても良かったと思います。(島田)



ご意見、お問い合わせは以下にお願いします。木村 (SSH通信担当)・松井 (教頭)
Tel 072-297-1065、Fax 072-293-2376、e-mail ssh@semboku.osaka-c.ed.jp